

★各市の教員の多忙化解消プランのホームページからご覧いただけます。(「尾北教労」で検索)

尾北3市2町の多忙化解消方針



今年の3月に、愛知県は「教員の多忙化解消プラン」を発表しました。その中で、「教員が疲弊することは、教育がおろそかになることにつながります。教員が一人ひとりの子どもに丁寧に関わりながら、質の高い授業や個に応じた指導を行うっていくため、教員が本来果たすべき役割は何かを明確にししながら、県と市町村教育委員会、学校が一体となって、(教員の長時間労働の是正に向けた具体的な)取組を進めてまいりたいと思います。」としています。これを受けて、尾北の3市2町の教育委員会は、それぞれのプラン(検討中を含む)を作成しました。ここでは、各市町のプランの要旨を紹介しながら、多忙化解消の方向性をみなさんとともに考えていきたいと思います。

80時間超の時間外勤務

昨年11月の在校時間調査によると、この市町でも過労死ラインである80時間を超える時間外勤務をした教員が多くいて、憂慮すべき事態にあります。とくに、中学校の教員が深刻な状況に置かれています。

大口町のプランには、今年4月と5月の在校時間調査の結果が載せられています。ここからは、80時間を超える時間外勤務をした教員は、11月より年度当初の繁忙期の方が、はるかに多いことが分か

ります。

(大口町)

昨年11月…小学校	18	7%
中学校	47	6%
今年4月…小学校	23	3%
中学校	71	3%
今年5月…小学校	26	4%
中学校	75	6%

それぞれの市町のプランからは、何とかして過労死ラインの80時間超をなくしたいという姿勢が伺われます。犬山市のプランでは次のように記されています。

校長は、在校時間が80時間を超える状況が常態化する前に、その理由を把握し、該当職員に対して削減のための具体的な方策について指導したり相談にのったり

する。場合によっては、産業医の面接指導を勧める。」(犬山市)

部活動の縮減

中学校の多忙化の最大の原因は、過熱化する部活動指導です。

それで、教員の負担を減らすために、どの市町も、当面、丹波地区校長会が定めた目標に沿って、平日・土日・長期休業中の部活動の縮減を提言しています。また、犬山市のプランでは、

犬山市部活動ガイドラインを校長会と共同で策定し、随時見直しを図る。」
学校経営案に、部活動の運営方針と生徒・顧問の健康面を趣意とした取り決り事項を明記する。」

各々が犬山市部活動ガイドラインに沿って運営できるように、活動日及び休養日、活動時間などについて計画表を作成し、保護者に周知する。」(犬山市)と示され、市独自の部活動ガイドライン作成の必要性と、生徒と顧問の健康面を重視した部活動の運営について触れられています。

さらに、犬山市と岩倉市では、部活動のあり方の基本的な見直しについても示しています。

総合型地域スポーツクラブの創設、運営、活動を支援し、部活動の代替となる受け皿づくりに取り組む。」(犬山市)
総合型地域スポーツクラブへの移行について検討を進める。」(岩倉市)

部活動のあり方の基本的な見直しは、重要な課題であり、全ての市町において検討と具体化が求められています。

通知表の作成

すでに今年度から、扶桑町では、懇談会で保護者に口頭で内容を伝えてあることから、前期通知表の所見欄は、文章表記をやめて、「〇〇委員会」「〇〇係」「〇〇クラブ」など、特記事項のみを箇条書きで記入する方式に変わりました。

また、岩倉市でも、同様の取り組みが進められています。

犬山市では、効率化を図る方向で検討がすすめられています。

通知表の作成・点検作業の効率化を図る。」(犬山市)

小学校

陸上運動記録会

9月に入ると、小学校では陸上運動記録会に向けて、ほぼ毎日、業後の練習が行われています。

そして、当日は、6年生の一部の選手のみ活躍し、その他の大勢の児童は応援だけで、しかも、午前中4時間もの授業時間を費やしています。

その陸上運動記録会について、廃止を含めた見直しの検討が進められています。大口町のプランには、次のように示されています。

小学校陸上運動記録会の在り方について学校連絡会で検討」(大口町)

お盆の「休校日」

扶桑町で、数年前から実施されていましたが、今年度からはすべての市町で実施されるようになりました。とりわけ犬山市では、「会議や行事を行わない期間」を「閉校日」にするといった対応が示されています。

夏季休業中における 会議・行事を行わない期間』は「閉校日」とし、教職員の年休取得を促す。」
(犬山市)

開錠・施錠時刻 留守番電話対応

ほとんどの市町で、学校の開錠時刻と施錠時刻の設定がなされています。大口町のプランでは、県のプランと同様、次のように示されています。

学校の開錠時刻は午前7時30分、施錠時刻は午後8時となるよう努める。」

(大口町)

また、勤務時間外の留守番電話対応について、岩倉市と扶桑町と犬山市が提案をしています。扶桑町のプランでは、次のように示されています。

夜間 19時30分～7時を目安として、
は、留守番電話対応とします。緊急時は、教育委員会対応(扶桑町)

割振変更簿の 設置と運用

割振変更簿のない学校では、時間外勤務があった場合、管理職から「割り振りをとってください」と口頭で言われることが多いと思われます。

しかし、早く帰ってもよいと言われても、仕事が忙しいためなかなか帰れず、口頭でどうやって言おうか戸惑ったりして、割り振りがとりにくいのが実態ではないでしょうか。

個人別の割振変更簿が設置されていれば、校長から示された割り振りの時数に合わせて、割振変更簿に記入して校長に申請し、平日でも、30分や1時間の割り振りをとることが出来ます。犬山市のプランでは、次のように示されています。

校長は、勤務時間割振変更簿の整備と運用を適切に実施する。」(犬山市)

研修・調査・会議 などの精選

すべての市町で、市町主催の会議・研修・調査・行事などの精選を進めるとしています。扶桑町のプランでは次のように示されています。

町が主催する会議・調査・研修の精選を図ります。自主研修会 扶桑塾」の終了、社会体験研修の期間短縮等)」

(扶桑町)

また、犬山市では、丹葉管内での研修会

の精選についても提言しています。

丹葉地方教育事務協議会内での研修会の精選を図る。」(犬山市)

在校時間の 把握

在校時間の記録は、勤務実態を把握する上で必要不可欠なものです。現状は、在校時間記録を、各自がパソコンのエクセル表で記録することになっています。

しかし、記録が面倒であり、さらには虚偽報告の問題が生じるなど、正確に把握できていない実態が見られます。今後はタイムカードやICカードなどの機械化・電子化の方向が求められています。岩倉市では、IC T機器を使った記録の仕方について検討するとしています。

「IC T機器を活用した在校時間管理について検討し、正確な把握と事務の簡素化を図る。」(岩倉市)

スクール ソーシャルワーカー

すべての市町で、スクールソーシャルワーカーの配置が提言されています。すでに、江南市と扶桑町では、今年度から配置されています。

スクールソーシャルワーカー、補助教員、特別支援学級支援員などの配置拡大に努めます。」(江南市)

「はじめ・不登校・虐待等の児童生徒支援のため、スクールソーシャルワーカーの配置を継続します。」(扶桑町)

多忙化解消に向けて

各市町からプランが示されましたが、それで多忙化がすべて解消されるのかというところ、それは簡単にはいきません。管理職から「早く帰るように」と言われても、「仕事が残っていて帰れない」というのが多くの先生たちの率直な思いであり、それが最大の課題です。

昨年度、尾北教労で行った学校づくりアンケートでは、「教員一人当たりの仕事量を減らすためにも、1学級の人数を減らしてほしい」という声がいくつも寄せられました。

教職員定数を増やし、すべての学年で少人数学級を実現する中で、教員の多忙化解消を図り、子どもたち一人ひとりに寄り添える教育が実現できます。

また、学習指導要領の問題も多忙化の大きな要因になっています。来年度からは道徳の教科化が実施され、さらには次期学習指導要領の移行措置が講じられることも予想され、現状よりさらに多忙化に拍車がかかることが懸念されます。

次期学習指導要領は、実に膨大な内容となっており、それに振り回されると学校運営に支障が生じる恐れがあります。学習指導要領は、あくまで「大綱的基準」であり、「児童の実態を把握し、指導内容、指導方法を決定してこそ、適切な指導を行うことが可能となる。」(指導要領解説)と示されているように、各学校の実態に合わせた教育課程を編成することが求められています。